

勢州七福神めぐり

「福神さま」を訪ねて元気になろう！



毘沙門天

東光山 神宮寺



布袋尊

松雲山 久安寺



福祿寿

金剛山 泉壽院



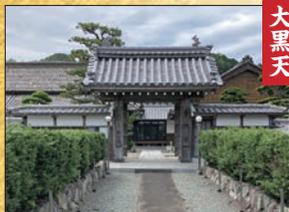
弁財天

瑞鷲山 白言寺



寿老人

玉樟山 隣江寺



大黒天

含笑山 昌慶寺



多比す天

不盡山 龍祥寺



大黒天・毘沙門天・多比す天・寿老人・福祿寿・弁財天・布袋尊。これら七柱の福徳の神様は「七福神」と総称されます。参拝すると、さまざまに「福」を授かるという七福神信仰は、室町時代末期ごろから広まったと伝わります。現代でも多くの人々に親しまれ、七福神を祀る社寺を巡拝する「七福神詣で(参り)」も盛んに行われています。

今回は、県内中勢地域の曹洞宗寺院7か寺で実施している「勢州七福神めぐり」をご紹介します。地図上の各霊場を結ぶとハート形になるため、右回りに回るとカップル・夫婦円満、左回りすれば、良縁祈願・恋愛成就がかなうとされています。この秋、個性豊かな「福神さま」たちに会いに行ってみてはいかがでしょうか。

●参拝方法

- 1 本堂前で合掌礼拝してから、堂内に入ります。
- 2 まず、本尊様を礼拝してください。
- 3 七福神さまの前で合掌二礼、二拍手、合掌一礼。
- 4 お参りを終えたら、本尊さまに合掌礼拝してください。

*各礼所の参拝時間は、9時から16時30分となっております。また、時間内であっても、檀務・法事などに対応できない場合があります。必ず事前に到着日時・人数などの連絡をお願いします。

*各礼所で行われる祭礼・法要などの開催日時・受入れ方法・料金などは、それぞれに異なり、変更する場合もあります。必ず事前にご確認ください。

取材・文：中村真由美

中村元美

撮影……梅川紀彦

尾之内孝昭

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

取材・撮影は6月中旬～7月上旬に行いました

愛嬌たっぷりの布袋尊と住職の占いで「元気になれる」

布袋尊 松雲山 久安寺

【多気郡明和町】



見るだけで元気になれる布袋尊

人々の吉凶を占うと百発百中だったことなど、不思議な能力の持ち主だったことがわかりました。こうした逸話などから、日本では商売繁盛・財運招福・千客万来・家運隆盛にご利益

があるとき、広く親しまれています。布袋さんに会いに久安寺を訪ねると、住職の種井 秀敏さんが温かく出迎えてくれました。まずは、寺の縁起について伺うと、



種井 秀敏住職

創立は明応7(1498)年ごろで、曹洞宗寺院としての開創は元禄5(1692)年だと教わります。この時、僧の鶴翁龍渚が津市の四天王寺から18世悟溪養頓を迎えて寺を建立したと伝わります。続いて、布袋尊について話を聞くと、代々伝わる像は秘仏のため、本尊の聖観世音菩薩像前には厨子内に安置されていて、見ることができないということでした。しかし、本堂横には高さ50センチメートルほどの像が祀られ、見事な太鼓腹と大きく口を開けた姿は、愛嬌たっぷりです。参拝していると、自然と心が和んでくるのがわかります。この布袋尊の由来について伺うと、意外にも熱心な信者から寄進されたという返事。また、随所で見られる布袋尊像もほとんどが寄進されたもので、「いつの間にか集まっていたね」と微笑む住職からは、おおらかな人柄が伝わってきます。また、町内の畠田神社祭礼の際に使用されていた大きな獅子

七福神の中で、唯一実在したとされるのが布袋尊です。中国の伝記によれば、唐の禅僧・布袋和尚といわれ、そのお腹はとて大きく、いつも額に皺を寄せて笑っていたといわれます。また、背負っている大きな袋の中身は尽きることがなく、雪の中で寝ていても濡れず、

頭も受け継がれていると聞き、見せていただきました。室町時代末期の作と伝わり、高さは約23センチメートル、横幅は約28センチメートル、奥行きは約35センチメートルあり、存在感十分です。クリクリとした大きな瞳と、デンとした大きな鼻も憎めない表情です。

さらに、久安寺で特筆すべきは、状況に応じて、住職による占いが受けられること。県内はもとより、関東圏や九州などから、占いを目的に来訪する方も多いといえます。その内容の多くは

恋愛や縁談ですが、住職は「占いを通してその方の不安や苦しみを取り除いたり、生き方を築くお手伝いができればと願っています」と話します。なお、「勢州七福神めぐり」の七霊場をすべて参拝し、満願成就した人には、開運・恋愛占いを無料で施術するという特典もあるとのことでした。

久安寺を訪ねて、愛嬌たっぷりの布袋尊と、じっくりと話を聴いてくれる住職に会えば、笑顔になって帰ることができるでしょう。



布袋尊像などを祀る祭壇



久安寺本堂



本尊の聖観世音菩薩像を祀る須弥壇



秘仏の布袋尊像を安置する厨子



獅子頭(明和町指定有形文化財)

お問い合わせ

TEL 0596-5513371

眼光鋭い毘沙門天、156枚の絵天井が見事

毘沙門天 東光山 神宮寺

【松阪市嬉野森本町】



本堂を彩る絵天井

毘沙門天を祀る神宮寺を訪ねると、城郭のような見事な石垣が現れます。かつてここには北畠氏一族の森本氏が居城としていた森本城があったのです。同寺が城跡に建つまでの経緯を、住



西村 倫也住職

職の西村 倫也さんに伺うと、開創は天平2(730)年に遡ることがわかりました。光明皇后の発願で、僧行基が旧嬉野町内の山の中に利勝山 瑠璃光殿を建立したのが始まりです。この時、安置されたのが、慈覚大師の一刀三礼彫刻の三体の薬師如来像でした。なお、一刀三礼とは、仏像に鑿を1回入れる度に3回礼拝することだと教わります。

そして開基は、室町時代のこと。多賀(旧姓森本)飛騨守正能が、現在の嬉野森本町内の別の場所に醫王山神宮寺を建立し、三体の像の内の一体を本尊として迎え入れたのです。なお、この

像には織田信長にまつわる話が伝わります。それは、神宮寺を焼き討ちしようとした信長の両眼が突然見えなくなったというものです。後悔した信長が篤く供養したことで焼失を免れた同寺でしたが、その後は北畠氏一門の滅亡とともに廃絶寸前になります。しかし、江戸時代に曹洞宗寺院として再興し、その際に山号を東光山と改めました。天明8(1788)年には、紀伊徳川家より寺領を許され、現在地の森本城跡に移築されたのです。

同寺の数奇な歴史は、さらに続きます。明治43(1910)年の台風で本堂が倒壊したのです。その再建の際に発案されたのが、絵天井による志納でした。県内だけでなく、名古屋市内などからも浄財が納められ、完成したのは大正6(1917)年のことでした。

「中国地方の絵師4、5人に描いてもらったと聞いています」と、住職の説明を聞きながら天井を見上げると、ケヤキの板一枚ごとに色鮮やかな絵柄と、

ご先祖様の戒名かいなまう施主名などが見えます。絵柄は豊富で、ボタン・ブドウ・スズメ・ウサギなどの動植物に加えて人物や富士山、龍などがあり、見ごたえ十分です。神宮寺の歴史に欠かせない本尊の薬師如来像は、秘仏のために目にすることはできませんが、毘沙門天像は可能です。インドにルーツがあるとされる毘沙門天は、勝運の武神として、武士階級の信仰を集めたことでも知られま

す。今では、商売繁盛・財運招福開運上昇・降魔厄除にご利益があるとされますが、甲冑かろうを身に付け右手に鉾ほこを持つ勇ましい姿が一般的です。本堂に祀られている毘沙門天像は平安時代後期の定朝作と伝わり、高さは86センチメートルあります。右手は鉾を持っていますが、左手は何も持たずに掌を左腰に当てていて、優美さが漂います。しかし、眼光は鋭く、心の



【「ばけ封じ祈願祈禱大法要」】※



神宮寺本堂



白寿観世音菩薩像



毘沙門天像※ (松阪市指定有形文化財)

ほかにもあります。高さ4メートルの白寿観世音菩薩像です。白寿とは99歳のことで、健康長寿を保ちたいと願う気持ちに込めるため、30年前に安置されました。以来、「ばけ封じの寺」としても信仰を集め、毎年10月に「ばけ封じ祈願祈禱大法要」が行われます。本年は10月17日(土)11時から13時までの予定で、当日受付も可能です。一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ

東光山 神宮寺
TEL 0598-43-2228

※印の写真は取材先から提供していただきました

福袋と打ち出の小槌を持ち、笑みをたたえる大黒さん



大黒天 含笑山 昌慶寺

【多気郡多気町】

訪問者を癒してくれる大黒天

文明年間(1469~1487)に五箇篠山城主が開基したと伝わる昌慶寺。ここで出会えるのは、商売繁盛・財運招福五穀豊穰・出世開運にご利益がある大黒天です。高さは約20センチメートルですが、福袋と打ち出の小槌を持って、米俵の上に乗る姿は存在感十分。穏やかな笑みをたたえた表情を目にすると、思わず頬が緩みます。

「天保12(1841)年のものと伝わりますが、平成になって修復して、色鮮やかにになりました」と話すのは、住職の



高津 徳仁住職

高津 徳仁さん。その言葉からは、大切な神様を守る覚悟が伝わります。

この昌慶寺で大切に守り続けているものが、大黒天や本尊の十一面観音像以外

にもあります。その一つが雲版です。雲版とは、禅宗寺院で時報の合図などに打ち鳴らす雲形の板のこと。同寺のものは、慶長9(1604)年に作られた青銅製で、縦が56センチメートル、横が52センチメートル。ご厚意で間近で見せてもらうと、作者名の田中 藤左衛門が読みとれました。

田中 藤左衛門は、滋賀県の鋳物師だと教わります。そしてもう一つ、



雲版

受け継がれているのが「チンドンおどり」です。これは、8月15日に盂蘭盆会大法要が営まれる中、本堂前広場で行われる踊りです。鉦や太鼓がチンドンと鳴り響く中、踊り手たちが7メートルの長さの幟(のぼり)を掲げて行進した後、幟を激しく打ち合います。享保年間(1716~1736)に五箇篠山城主の野呂秀隆の武勇を偲んで始められ、幟が折れるほど、極楽浄土に行けると信じられています。



昌慶寺山門※



「チンドンおどり」※

昌慶寺の大黒さんは、これからも笑みをたたえて、地域の人々や訪問者を見守ってくれることでしょう。

お問い合わせ

含笑山 昌慶寺

TEL 0598-491-3262

※印の写真は取材先から提供していただきました

美しい彩りのアート御朱印には桃と鶴が描かれる

福祿寿

金剛山 泉壽院

【伊勢市中須町】



福徳円満の福祿寿



浦野 将志住職

宗してからは8代目となりますが、もともと浦野さんは東京育ち。母方の祖父の跡を継ぎ、大学卒業後に後継者として伊勢に来ました。

境内の一角に菅原神社が祀

られています。「もともとこの国は神仏習合。明治の廃仏毀釈により分かれてしまいましたが、神様も仏様もありがたいものです」と住職。

寺に祀る大日如来仏は、火事にあっても無傷で残ったと伝わっています。

七福神の福祿寿は、中国から勧進されました。福祿寿とは中国道教の長寿神で、幸福・財宝・長寿の三徳を具現化したものです。体の半分を占めるほどの長い頭、長い顎鬚、大きな耳たぶを持ち、鶴と亀を連れ、左手に桃、右手に巻物



絵心のある御朱印

七福神めぐりと合わせて、良縁大黒にお参りし、契り糸で縁結びの願掛けをする人も多いようです。

三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓す」に所属し、バイクにも乗る多趣味な浦野さん。ツーリングで訪れる人を温かく迎え入れています。

お問い合わせ

金剛山 泉壽院

TEL 0596-251-3336



泉壽院本堂

さん。曹洞宗に改

宮川沿いの県道を走ると、伊勢市中須町の住宅街に一軒、突き出した瓦屋根が見えてきます。ここが泉壽院です。「古い資料が残っていないので、はっきりとはわかりませんが、寛永17(1640)年が創始で、かつては川の中洲にあり、そこには泉が湧いていたとされています」と住職の浦野 将志さん。曹洞宗に改

0)年が創始で、かつては川の中洲にあり、そこには泉が湧いていたとされています」と

住職の浦野 将志さん。曹洞宗に改

天然記念物のクスノキが繁る長寿づくしのご利益

寿老人

玉樟山 隣江寺

〔志摩市磯部町〕



延命長寿の寿老人



濱口 知希住職

静かな入江の的矢湾沿いの坂崎集落に、小高い丘の上で、一際目を引く大きなクスノキが繁っています。ここが隣江寺で、山号の玉樟山は、このクスノキに由来しています。

〔寛永8（1631）年に開基と過去帳



隣江寺本堂

にはありますが、実際にはその数年前に建立されていたと推定されています」と話す濱口知希さんは、曹洞宗改宗

代表を任されています。

「本尊は薬師瑠璃光如来ですが、秘仏と聞いているので開帳はしていません。そのかわりに七福神の寿老人が、にこやかな笑みをたたえています」と住職。寿老人は長い頭に長い白髭、巻き物をつけた杖を持ち、鹿を従えた姿が一般的です。鹿は玄鹿と呼ばれ、「ろく」は延命長寿、福祿の神とされる「禄」に通じています。また「樹老人」とも書かれ、樹木の生命力から長寿を象徴しています。そんな長寿の木とされているのがクスノキです。寺の大樹は推定450

年ほどで、境内には並んでイチヨウの大木もあり、どちらも市指定の天然記念物です。



長寿の象徴、クスノキ

本堂の建て直しはおよそ50年前ですが、100年ほど前までは「隣江庵」と呼ばれていたようです。その横にある弥勒堂は見るからに古い建物で、弥勒菩薩、毘沙門天、不動明王をお祀りしています。瓦には左三つ巴の御紋が刻まれています。これは隣江寺の本寺である常安寺を菩提寺とする九鬼家の家紋です。

複雑に深く切れ込み入りアス海岸の入江の隣で、クスノキとともに歴史を刻んでいます。

お問い合わせ

玉樟山 隣江寺

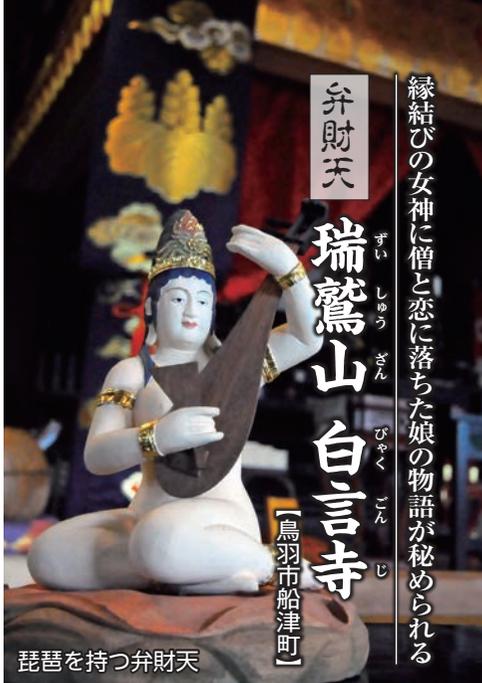
TEL 0599-5510100

縁結びの女神に僧と恋に落ちた娘の物語が秘められる

弁財天

瑞鷲山 白言寺

〔鳥羽市船津町〕



琵琶を持つ弁財天



白言寺本堂

た際に、音楽・弁才・財福・知恵の徳があるとされ、琵琶を持つ姿で知られるようになり、縁結びなどの信仰を集めています。

ちた物語が伝わっています。二人の立場から、周囲に認められる恋路でなく、反対されていた里登は、村を捨



〔三笠塚〕の石碑

白言寺には僧と恋に落ちた娘が来世で弁財天に生まれ変わったという話が語り継がれ、寺から少し奥まったところにある滝に、そのルーツを辿ることが出来ます。禊で知られる「白滝大明神」の参道には、「三笠塚」という小さな石碑が建っていますが、これに「しらかきへ 願を愛にとりなして みずの沫になさず守らんと刻まれています。この句は禅僧が死別した伴侶に詠んだもので、江戸末期に鳥羽の離島にあった禅寺の僧と里登という娘が恋に落ちた物語が伝わっています。

て、行者山の麓の白滝さんへとやってきました。それから小さな庵を建て、50年余り、里登は人生を終えるまで世俗を離れて暮らしたとされています。白言寺が保管する資料には、里登の記録が残されています。



〔白滝大明神〕

白言寺の背後にあるのが、標高309メートルの船津行者山です。山頂には石で囲まれた祠に役行者の像が祀られ、白滝さんには弘法大師が瞑想に使ったという「弘法岩」もあり、祈りの場所が点在。周辺一帯が霊験あらたかな場所として、厳かな雰囲気漂っています。

お問い合わせ

瑞鷲山 白言寺

TEL 0599-2514394

熊手などの縁起物は和紙で一つひとつを手作り

ゑびす天

不盡山 龍祥寺

【度会郡大紀町】



商売繁盛のゑびす天

が、明治の中頃に合併し、現在の地に龍祥寺が新たに創建されました。堂内に飾られた再興後の茅葺き屋根の写真が、時代を物語っています。

世襲管理となつて4代目の小倉寛史さん。寺の18代目住職を務める父親の康司さんから継ぐことを強要されなかつたようですが、檀家の人々に面倒をみてもらつて過ごすうち、跡取りとなることを決意したと話してくれま

す。「江戸時代にこのお薬師さんに参ると母乳がよく出ると、熱心に願掛けをする人もいたようです」と住職の康司さん。

七福神に祀るのはゑびす天。七福神の中で唯一、日本の神様です。左手に鯛を抱え、右手に釣り竿を持つ姿で、大漁満足・五穀豊穰・商売繁盛などをもたらすと信仰されています。本堂横には朱色の幟はためく稻荷明神のお社もあり、合わせてお参りする人も多く、「遠方からも商売がうまくいったとお礼参りにも来てくれる人もいて、ありがたいことです」と寛史さんが教えてくれました。続けて「まちの人口が過疎化で少なくなっています。檀家さん以外の方にも継続的に来てもらえるようにと、この企画に賛同しました。七福神のことは皆さん、よく知っていますし、勢州七福神が結ぶ地域は、海あり山あり川ありの風光明媚なドライブコース。気軽に周つてもらうにはいいコースですし、大紀町には阿曾温泉や瀧原宮、

熊野古道が通じる大紀町阿曾の集落に、かつては川を挟んで2つのお寺がありました。寛延元(1748)年開創の不盡山宝泉寺と、寛文元(1661)年開創の諏訪山龍祥寺です。明治時代の廃仏毀釈で一度は廃寺となりました

した。

本尊は万病にご利益があり、靈験あらたかな瑠璃光薬師如来。薬壺を左手に持ち、その左手より鮮やかな五色の糸が延びています。それを握つてお参りすることで願いが仏様に届くよう

頭之宮四方神社など見所もたくさんあります。どうすれば、もっとたくさんの人に足を運んでもらえるか、試行錯誤し、お互い仲間と刺激あつて、切磋琢磨しています」と、意欲的な寛史さん。御朱印も新しい種類を提案しました。堂内にはゑびす天にちなんだ縁起物の熊手が並んでいます。一つひとつ細工が違い、繊細で華やか。「勢州七福神めぐり」の御朱印を押す金色の色紙にも、宝船の和紙細工が施されていますが、こ

ので、母親の真弓さんが檀家さんと一緒に手作りしています。「年末から節分にかけては干支などの縁起物も作り、出店の依頼もあつて忙しくなるんです。何も考えずに集中して作るので、家族を亡くした悲しみから立ち直つてくれた人もいますよ」と地域の人に寄り添う真弓さん。瓢箪や桜のストラップなど種類もたくさんあつて、どれにしようか迷います。龍祥寺が一年で一番賑やかなのは、花祭りが行われる4月第1日曜日です。

大般若祈禱会や甘茶の振る舞い、餅まきに大勢の人が詰め掛けます。樹齢140年のしだれ桜の開花に合わせ、ライトアップも行われ、少し離れた国道42号からもその姿が確認できます。ほかにもツバキやアジサイなどが咲き誇り、住民が集うだけでなく、遠方からの参拝も増え、季節ごとに彩り豊かな寺を盛り立てています。

お問い合わせ

不盡山 龍祥寺

TEL 0598-861-2625



龍祥寺本堂



瑠璃光薬師如来像



左から小倉 寛史さん、住職康司さん、真弓さん



和紙細工の縁起物